

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193-28 (電話) 0947-22-2101		
自己評価作成日	平成 29 年 7 月 1 日	評価結果確定日	平成 29 年 9 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりの生きがい作りは開園当時から取り組み目標であるが、利用者の高齢化や体調の変化に伴い、今まで出来ていた事が困難になってきたが、今まで通りのその人の生き方を模索しながらも、全体で出来ることに重点を置くようし、外出支援（個別ショッピングやバスハイク、いろりの郷）毎日のレクリエーションを充実させ、明るく、楽しく元気なホームを目指している。地域交流として「ふくちの日」「畑の日」を行っており、身近な地区の老人会の皆様や民生委員の方々にも参加して頂くことにより、地域のホームとして皆様に親しんで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 7 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員の定着が良い事業所である。開所以来のスタッフや10年以上いる職員がおり、介護のスキルも高く、利用者、家族との信頼関係も深い。介護に関するデータは利用者別にIPADに集積しており、職員が利用者個別の状況と、全員の情報を即座に把握できるシステムを構築している。ハイテクのみならずアナログ的な温かさを上手に活用し、マッチングさせている。セキュリティ面にも敏感で、利用者、家族の安心安全に心を配っている。管理者、職員全員が利用者を血を分けた身内の様に接し、介護実践を行っている事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱から成り立っている。実践の為に、年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。	管理者が朝礼時や職員会議等で理念の再確認を行っている。管理者も現場に入り介護実践を行っており、適時必要な時に職員に注意を与えて理念の具現化に向けて努力している。理念の中に、“地域社会との交流を深め、地域社会の一員として暮らすことをめざす。”とあり、地域密着の方向性をうちだしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、参加しているが小学校等への訪問回数が少ない。月に1回～2回の畑の日には、地域の方や老人会の方が参加されて、入居者の方と作業を行なっている。	神幸祭には、山車が敷地内を練り、獅子舞も行われる。小学校の運動会への招待や毎月二回の“畑の日”にはボランティアクラブが多数参加し、利用者、職員と一緒に農作業を行い、スイカ、メロン、ジャガイモ、紫芋を作っている。地域住民からのおすそ分けもあり、地域交流は活発である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている“ふくちの日”に、民生委員の方に参加して頂き、ホームの内容や利用者の方の状態を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については、前向きに対応し、サービス向上に努めている。	運営推進会議は二か月に一度開催され、利用者、家族、地域代表、行政等からの参加がある。委員から防犯への取り組みについての意見が出され、防犯研修（警察署主催）への参加と防犯カメラの設置が確認できる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。	定期的に行われる“ふくちだより”を行政の担当職員に持参して、現状報告や相談等を行っている。また、地元社会福祉協議会との連携も密である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の施設同様に拘束廃止委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけでなく青あざの発生状況についても観察し発生を予防できるように取り組んでいる。	玄関は7時から20時迄は施錠していない。利用者の外出傾向も職員全員で把握しており、併設施設、地域への呼びかけも行っている。併設施設と合同で拘束廃止委員会を設置して、あざの原因究明にIPADを活用して取り組んでいる。研修への参加も行われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、併設施設と共に協力しながら、色々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について話合っている。	制度については、利用者家族へ契約時や来訪時に説明を行っている。前回調査において指摘された成年後見制度についての調査結果をふまえて、地元社会福祉協議会から講師を招き、三回にわたり研修が行われ事業所全員が成年後見制度等を理解している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には、事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席していただき、運営に反映させる努力をしている。また、家族の面会時に、意見や提案などを確認し、サービス提供に反映させている。	利用者、家族と管理者、職員との隔たりは見られず、率直に相互の意見の交換が行われている。食事の折の席の位置、トイレの利用、服装、盆踊りの浴衣の着付け、ヘアスタイル、毛染めへの要望があり、日常に支援が行われている。また、転倒防止への家族の意見を反映して、畳の部屋への変更したこともある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題についても話合っている。必要に応じ個別でも話し合いを行っている。	月一度の職員会議をはじめ、介護現場では管理者と職員が一緒に働いており、職員の意見が即座に管理者に伝わり、改善への取り組みが迅速に行われる体制である。事例として、夜間の利用者の体位交換やパットの着用法を工夫して、パットの大幅な減少が見られた。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢・性別等を問わないようにしている。また、職場では職員の特性に応じた役割分担を心がけ、基本方針として定年まで働けるようにしている。	職員構成は、男女年齢幅広い。定年は65歳であるが、その後も契約更新により雇用の延長ができる。有給の取得、資格取得者への手当の支給、突発的な休みや職員の家庭の事情も配慮されている。また、職員が自己申告する年間目標の達成による人事考課がなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通じて行っている。	人権週間をはじめとした行政の人権への取り組みの行事と連携して外部研修を管理者が受講して、職員向けに内部、伝達の研修を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービス向上を取組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談に来られたときより本人様や家族が安心して話の出来る環境作り、本人様の困っていることや不安、要望等に傾聴していくことで、本人様の置かれている状況を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来られたときより、これまでのご家族の苦労を労い、入所希望に至った経緯等に、じっくり傾聴するようにしている。その上で、御家族の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や話し合いの中から、出来る事得意なことは本来の力が発揮できるように支援し、食事の準備、後片付け、買い物なども共に行なっていくように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ面会に来て頂くようご家族に声掛けしているが、特に誕生日会・家族会・福智園祭り・敬老会等の行事には参加して頂くようにしている。遠方のご家族には便りや電話にて、利用者の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとって関係の深い方が、気兼ねなく来訪できるよう心がけ、又、利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。	地域の病院が核となって取り組んでいる認知症カフェへに参加し、地域住民との交流を積極的に行っている。利用者の通院介助時には、利用者のなじみのある場所をまわるように配慮している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用同士の関わりが深まるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や廊下ソファー等で過せるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり併設施設へ移転されても、面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合い、訪問する機会を設けたりして、よりよい人間関係を保っていけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心掛けている。	利用者の思いや意向については、本人や家族からの話を蓄積して、職員間で共有している。また、日頃から利用者の思いと意思の把握について検討している。利用者がトイレに行きたくなる際にとる特定の行動を理解し、誘導している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様との関わりの中で生活歴、暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議をし、本人様、ご家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。	3ヶ月に1度モニタリングをして、計画の見直しを行っている。計画の見直しの際には、家族や本人の要望や意向を聞き、それを取り入れるようにしている。見直した際は、家族から署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	IPadに個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を入力し記録している。IPadで全利用者のデータが見れるので、朝礼・終礼の際、申し送りを行い職員間で共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、ご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行い、安心した生活が送れるよう心がけている。また、ショッピング・バスハイク等を、導入している為、個々の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政・地域の複視関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。	協力病院はあるが、希望者があればかかりつけ医に連れて行っている。検査など同意が必要なときは、家族にお願いしている。しかし、検査時にどうしても家族が連れて行けない時は、事前に話し合い家族や本人の承諾を得て、送迎を行い支援をしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、ホームの看護師や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴、生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能低下に配慮しながら、主治医、ご家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、本人、御家族の希望を重視し今度の方針について、御家族、主治医と連携をとりながら検討するようにしている。	重度化終末期のケアについては、行っていない。終末期については病院または同敷地内にある特養でケアすることを利用して開始時に説明して理解を得ている。状況の変化に応じて家族と職員で話し合いを繰り返し、方針を決めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練、誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方々の参加も促し、消防署の協力を得て定期的に日勤・夜間帯における防火訓練を実施。訓練を通じ問題点の洗い出しを行い利用者の命を守る対策の向上に繋げている。併設施設との協力体制も構築している。	年6回地域の方も参加して避難訓練を実施している。消防署の協力を得て毎年2月は総合訓練を行っている。避難訓練後に、その都度反省を行い、指摘があった点（避難者の一覧表やチェック表の利用など）の改善を行っている。非常用食料・飲料水・備品も準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室にいる時や排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮した同性介助を基本としている。言葉掛けには、尊厳を傷つけないように配慮している。	利用者を傷つけないように職員間でしか分からない言葉で利用者の排泄を知らせている。入浴時には同性介助を徹底している。プライバシー保護については、他の家族や外来者の前で本人のプライバシーをもらさないなどミーティング時に注意したり、内部研修で全職員に浸透させている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け時は、意思が出せるような声掛けを常に行っている。外出時や入浴時間の選択、行事食のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等については、希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごす事を好む人、煩わしいと感じる方がいる為、一人ひとりの思いに合わせての行事参加を促したり、したい事の実行が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや白髪染を行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて化粧、ネイルを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせてた食形態を考慮したり好みによるパン食や行事食の希望メニュー等に配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。	カレのルーとご飯を別々の皿に盛ったり、基本のメニューが焼き魚でも煮魚にするなど一人一人の嗜好を聞きとり、実施している。事業所の畑で収穫した野菜を食材にしたり、職員と一緒に片づけや皮むきなどを手伝ってもらっている。職員も同席し、楽しい食事の雰囲気作りをしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食材業者が行っている。利用者のアルブミン値を、定期受診時に測定し栄養状態を確認している。毎日の食事摂取量や水分の種類摂取もIpad入力し、日々の食事管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食の歯磨き、口腔ケアは習慣化している。利用者の能力に応じた支援で、清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預りポリドントにて洗浄、除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレの声掛けや仕草や表情から判断し誘導を実施している。リハビリパンツ、尿取りパット使用をしないで済むように支援している。	外を見始める、歩行器を寄せようとするなどのトイレに行きたい時のサインを利用者の一人ひとりについて把握している。入院でオムツを使用していた方が、退院1ヶ月位でパット、布パンツでも失禁をしなくなったり、入所時はリハビリパンツだったが布パンツの着用だけでよくなった方もいる。排泄の支援については常に見直し、自立を促している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便形態や排便間隔等をIpadに入力し水分摂取状況と確認しながら、把握している。食物繊維の多い食材の摂取、体操、腹部マッサージ等を行ない、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、午前、午後問わず入浴が出来るようにしている。希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	本人が希望すれば毎日でも入浴できる。入浴を嫌がる方には、自然に浴室まで行くように声かけしたり、入浴する気になるのに時間がかかる方には、朝7時から声かけなどして、入浴日だと自覚してもらうように工夫をしている。季節感を味わってもらうために入浴剤を使用したり、ゆず風呂の日を設けたりして、楽しく入浴できるようにしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなった時に眠るようにしている。極力、薬を使用せず安眠できるように心がけている。寝つきの悪いときや不穏時は、和室を利用したり、お茶を提供し会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、名前、顔、日にち、朝昼夕のいずれかの4点確認を行ない飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は情報を細かく行い変化があれば受診を行なう。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かされている。季節の花見学等、その時々に応じて対応している。	1ヶ月に1回の定期的な買い物日はあるが、個人の要望に応じ、その都度買い物に連れて行っている。個々人の希望でコンサートや映画、毎朝の散歩にも同行している。毎月のレクリエーションの計画を立て、ドライブで季節に応じた花などを見に行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的にくち便りを家族に送り利用様の様子が判るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い食堂、ウッドデッキがあり日中の強い日差しは、レースカーテンやすだれで遮光している。換気には十分配慮し、トイレは尿臭などしないように、こまめに清掃している。	壁には以前の利用者が描かれた絵画や鯉のぼりや七夕など季節感が出るようなものを、飾っている。ちぎり絵や貼り絵などリハビリもかねて利用者が手作りしている。シンプルな飾りの中に、家庭的な雰囲気があり、静かで居心地良い空間ができています。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関ベンチ、和室、食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来る場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことで、安心感や居心地の良さを見たり、感じたりしてもらえるようにしている。	お花が趣味の利用者の部屋には造花や花のリースが飾られていた。備えつけの家具もあるが、家から大きな筆筒を持ってこられた方もいる。希望すれば、新聞も頼むことができる。 以前の利用者が描いた絵画が共有スペースに飾ってある等利用者の馴染みの物への配慮が感じられる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーになっている。必要箇所への手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマットを使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は「人権尊重」「能力発揮」「地域交流」の3本柱から成り立っている。実践の為に、年度目標を定め職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、参加しているが小学校等への訪問回数が少ない。月に1回～2回の畑の日には、地域の方や老人会の方が参加されて、入居者の方と作業を行なっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域の窓口になっている“ふくちの日”に、民生委員の方に参加して頂き、ホームの内容や利用者の方の状態を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については、前向きに対応し、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて行政担当者や包括支援センターの担当者と意見交換を行いながら連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の施設同様に拘束廃止委員会を設け、身体拘束や言葉の拘束だけではなく青あざの発生状況についても観察し発生を予防できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、併設施設と共に協力しながら、色々な角度からの検討を重ね虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について話合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約時には、利用者や家族には、事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席していただき、運営に反映させる努力をしている。また、家族の面会時に、意見や提案などを確認し、サービス提供に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題についても話合っている。必要に応じて個別でも話し合いを行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員個々に応じた職務目標設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、年齢・性別等を問わないようにしている。また、職場では職員の特性に応じた役割分担を心がけ、基本方針として定年まで働いて頂けるようにしている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育の研修等には極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、ケアカンファレンス・朝礼・終礼等を通じて行っている。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービス向上を取組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られたときより本人様や家族が安心して話の出来る環境作り、本人様の困っていることや不安、要望等に傾聴していくことで、本人様の置かれている状況を理解するように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談に来られたときより、これまでのご家族の苦労を労い、入所希望に至った経緯等に、じっくり傾聴するようにしている。その上で、御家族の立場に立ち共に協力し合っていける関係作りに努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じ必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所、病院等の紹介も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴や話し合いの中から、出来る事得意なことは本来の力が発揮できるように支援し、食事の準備、後片付け、買い物なども共に行なっていくように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ面会に来て頂くようご家族に声掛けしているが、特に誕生日会・家族会・福智園祭り・敬老会等の行事には参加して頂くようになっている。遠方のご家族には便りや電話にて、利用者の状況を知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人にとって関係の深い方が、気兼ねなく来訪できるよう心がけ、又、利用者の生活地域の交流に参加し、知人や友人との関係が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用同士の関わりが深まるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や廊下ソファ等で過せるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり併設施設へ移転されても、面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合い、訪問する機会を設けたりして、よりよい人間関係を保っていただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人様の生活・職歴・病歴・生きてきた足跡等で見出し、本人様の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るように心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様との関わりの中で生活歴、暮らし方、生活環境を把握しサービスに提供していくようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム、体調、気分の変化を確認しながらサービスを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の要望を聞き取った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議をし、本人様、ご家族様の意向に基づいた利用者本位の計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	I P a dに個々の食事・水分・排泄・バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を入力し記録している。I P a dで全利用者のデータが見れるので、朝礼・終礼の際、申し送りを行い職員間で共有し継続したケアを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じ、ご家族と相談しながら早期の病院受診や定期受診を行い、安心した生活が送れるよう心がけている。また、ショッピング・バスハイク等を、導入している為、個々の要望に応じた対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し行政・地域の複視関係者より助言を頂き日々のサービス提供に生かしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、本人かかりつけ医があれば、基本的には継続し医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師、ホームの看護師や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院側に本人の特徴、生活状況等を伝え認知症の進行や身体機能低下に配慮しながら、主治医、ご家族と情報交換を行い早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、本人、御家族の希望を重視し今度の方針について、御家族、主治医と連携をとりながら検討するようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練、誤嚥時対応を年に1回実施している。マニュアルに基づく勉強会を行い職員全体に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者全員の参加や老人会の方々の参加も促し、消防署の協力を得て定期的に日勤・夜間帯における防火訓練を実施。訓練を通じ問題点の洗い出しを行い利用者の命を守る対策の向上に繋げている。併設施設との協力体制も構築している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が居室にいる時や排泄、入浴時は特にプライバシーに配慮した同姓介助を基本としている。言葉掛けには、尊厳を傷つけないように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け時は、意思が出せるような声掛けを常に行っている。外出時や入浴時間の選択、行事食のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等については、希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で過ごす事を好む人、煩わしいと感じる方がいる為、一人ひとりの思いに合わせての行事参加を促したり、したい事を選択が出来るようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員によるカットや白髪染を行っている。男性は、毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて化粧、ネイルを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて食形態を考慮したり好みによるパン食や行事食の希望メニュー等に配慮している。食事の準備、調理、盛り付け配膳、後片付けも無理のない範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は、食業者が行っている。利用者のアルブミン値を、定期受診時に測定し栄養状態を確認している。毎日の食事摂取量や水分の種類摂取もIpad入力し、日々の食事管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食の歯磨き、口腔ケアは習慣化している。利用者の能力に応じた支援で、清潔保持に努めている。義歯使用者は、夕食後に預りポリドントにて洗浄、除菌をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレの声掛けや仕草や表情から判断し誘導を実施している。リハビリパンツ、尿取りパット使用をしないですむように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便形態や排便間隔等をIpadに入力し水分摂取状況と確認しながら、把握している。食物繊維の多い食材の摂取、体操、腹部マッサージ等を行ない、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、午前、午後問わず入浴が出来るようにしている。希望時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなった時に眠るようにしている。極力、薬を使用せず安眠できるように心がけている。寝つきの悪いときや不穏時は、和室を利用したり、お茶を提供し会話をしながらリラクセスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は、名前、顔、日にち、朝昼夕のいずれかの4点確認を行ない飲み込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は情報を細かく行い変化があれば受診を行なう。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に楽しみごとや気分転換等の支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事だけではなく本人の希望により個別ショッピングに行かれている。季節の花見学等、その時々に応じて対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、自己管理をしてもらっている。出来ない方には、ショッピング等で、お金を手渡し支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、行事予定表や定期的にふくち便りを家族に送り利用様の様子が判るようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い食堂、ウッドデッキがあり日中の強い日差しは、レースカーテンやすだれで遮光している。換気には十分配慮し、トイレは尿臭などしないように、こまめに清掃している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下ソファ、玄関ベンチ、和室、食堂など、それぞれ思い思いの過ごし方が出来る場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、思い出の品、馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことで、安心感や居心地の良さを見たり、感じたりしてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てバリアフリーになっている。必要箇所への手すりの設置。トイレは4ヶ所設置され、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマットを使用した浴槽がある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない